

「今日の給食、なあに？」

取組主体: 清須市立西枇杷島第1幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

連携団体: 清須市学校給食センター

実施時期: 通年

実施場所: 清須市立西枇杷島第1幼稚園

対象及び参加人数: 全園児 203名(3歳 67名、4歳 63名、5歳 73名)

[取組の内容] キーワード：幼稚園児、給食、季節、給食展示、講話

清須市立西枇杷島第1幼稚園では、5月の連休明けから給食が始まります。お母さん以外の方が作ったものを家族以外の人と一緒に食べるのは初めてです。「食べられない」「これなあに?」「もういらない」などと最初のころは食べられなかった子どもたちも、1年が過ぎると嫌いなものも少しずつ食べられるようになり、給食中の会話も楽しそうです。そして、帰りにはその日の給食展示をお母さんと一緒に見て、「空っぽにしたよ」「おかわりたべたよ」「おうちでも作って」など楽しい会話が聞かれます。

年に1・2度、給食センターの栄養士さんに幼稚園に来ていただき、4・5歳児は、その日の献立や栄養の話、箸の持ち方なども教えていただきます。食べ物に見立てたスポンジや毛糸玉を箸でつまんで見せ、得意顔の子もいます。「たくさん食べてね」「空っぽにしてくれるとうれしいな」などと言われ、張り切って食べる子どもたちです。



[活動の成果、今後の課題]

近年、限られたメニューしか食べたことがない子どもたちが多く、季節の食材・料理、さまざまな料理法で調理された給食は、いろいろな味、食材を知らせることができるといせつな活動です。

毎日の給食展示は、帰る時に親子で見ることが楽しみになり、保護者の方も実際にどんな給食だったかを確認できて好評です。献立表だけではわからないお母さん方からは、実際に見ることで「美味しそう・・・」「家では食べないのに・・・」「今度作ってみよう」などの声が聞かれます。献立表に時々載せていただけるレシピも参考になるようです。

また、年1~2回栄養士さんも園に来ていただくことで、給食を作ってくださる方への思いも育ちます。今後も栄養士さんと連携し子どもたち・保護者への食育指導を工夫したいと思います。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

園児と調理員さんの交流が盛んです

取組主体: 東海市立東山保育園
(社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 保育部会)

実施時期: 通年

実施場所: 東山保育園

対象及び参加人数: 東山保育園園児 168 名

【取組の内容】 キーワード： 保育園児、調理員、交流

東海市立東山保育園では、子どもたちの元気な心と体を培うために、人とのかかわりとマナー、健康づくり、食への興味を柱として、食育に取り組んでいます。

毎日おいしい給食をつくってくれる調理員さんとのかかわりは盛んです。子どもたちは調理員さん3名の姓名を知っていて「さん、いいにおいだね。」と調理室の窓越しに話しかけ、会話をすることもしばしばです。

自分たちで栽培をした野菜を調理員さんにイタリアンや中華風に味付けをした料理をつくってもらい、日頃野菜嫌いな子も完食する姿がみられます。

給食の食器は陶磁器なので、あやまって割ってしまう子もいます。割ってしまった子は神妙な顔つきで「さん、お皿を割ってしまいました。ごめんなさい。」とあやまりにきます。調理員さんに「けがしなかった?これから気をつけようね。」と優しく言われて、子どももホッとした表情になります。



【活動の成果、今後の課題】

これからも食育の一環として、自園で調理するからこそできる調理員さんとのかかわりを大切に、子どもたちの食への興味・関心を育てていきたいと思えます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

家族や仲間と食べる楽しさ宣伝部

取組主体: 名古屋市内山保育園

連携団体: 愛知県社会福祉協議会

実施時期: 平成 25 年 2 月 7 日 (木) 他 1 回

実施場所: 名古屋市

対象及び参加人数: 内山保育園 3 歳児クラスの保護者 28 人

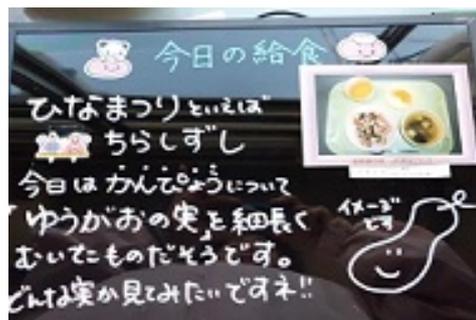
[取組の内容] キーワード : 給食、園児、保護者、情報発信、交流

名古屋市内山保育園は、乳児・幼児合計 156 人の大規模園です。毎年、保育士さん達が食育計画をたて、野菜の栽培やクッキング等を通して、子ども達に食への関心を持ってもらうよう働きかけています。そんな中、我々調理員にも何か出来ないかな?と考え、いつも野菜を納入してくれる業者さんとの何気ない会話を、保護者の方々に発信してみてもどうだろう?と思いつきました。

なんと八百屋さんは「野菜ソムリエ」の資格を持ってみえ、食材の情報提供に快く協力してくださいました。

市場で仕入れた旬の食材情報や、野菜の栄養素、野菜の歴史などメニューボードに毎日の写真とともに掲示しています。保護者の方々からも好評で、保育園給食を支えてくださる業者さんへの親しみを持ってもらうことができました。

また、3 歳児クラスの懇談会では、先生と連携をとり、試食をしながらその日のメニューの紹介や、家庭での食事の様子を話し合っています。「野菜を食べないのですが...」「一緒にキッチンに立ちたがるけど、危なくて...」「うちはきぬさやのすじ取りをてつだってもらってる。」「この前のレシピを教えて欲しい。」など、会話が弾み、保護者の方々の食に対する興味や関心の強さに驚きました。



[活動の成果、今後の課題]

こうした交流から、「食」に関する様々な異なる目線にであうことは、私達にとっても学ぶことが多く、ニーズに応えていく必要性を感じました。

今後は、「家族や仲間と食べる楽しさ宣伝部」として、子どもたちや保護者の皆さんとの交流を深めていきたいと思えます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

すこやかクッキング ～ 3世代で挑戦～

取組主体： 瀬戸市健康づくり食生活改善協議会

連携団体： 瀬戸市他

実施時期： 平成 24 年 7 月 21 日(土) 他計 3 回

実施場所： 瀬戸市

対象及び参加人数： 市内在住の小学生からシニアまで 18 名

[取組の内容] キーワード：食生活改善推進員、調理実習、世代交流、野菜

瀬戸市では健康づくり食生活改善推進員が地域に出向き、野菜をたっぷり使ったメニューで調理実習を行いました。

今回は料理を通して世代交流をすることをテーマとし、1つの献立に野菜を1つのみ使い、野菜そのものの味や健康への効果をクローズアップして実施しました。

当日は食生活改善推進員の担当者が参加者に分かりやすいよう模造紙に大きく手書きでレシピを書き、それをホワイトボードに張るなどの工夫をしました。

また「すごいぞ！野菜のパワー」と題して栄養ミニ講話も行い、野菜の大切さを呼びかけました。計3か所で実施しましたが、どの回も定員を超えて大盛況でした。



[活動の成果、今後の課題]

子どもから高齢者が一緒に調理することで各々が出来ることを分担し、補い合いながら、和やかな雰囲気の中で実施することができました。

簡単でおいしい料理は参加者にとっても好評で、終了後のアンケートでは「孫と料理が出来てうれしかった」「野菜をテーマにしたよく考えられたメニューでおいしかった」などの言葉をもらいました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

コープひろば「食生活」

取組主体: 生活協同組合コープあいち

実施時期: 平成 24 年 6 月～12 月

実施場所: 愛知県内 16 箇所

対象及び参加人数: コープあいち組合員 約 80 人

[取組の内容] キーワード：食生活、稲作、ワークショップ

コープひろばは、くらしを取り巻くテーマについて生活者一人ひとりが興味関心を高め、考えを深めることによって、自らのくらしの主体者になること、また結果として生協の活動にかかわっていく入り口にもなることを目指して、7回連続で開催する講座です。

その第4回目「食生活」の回では、稲作の紙芝居を全員で見てお米を作る苦勞を知り、ワークショップを通じて自分たちの日頃の食生活をふりかえり、楽しい食事を行うにはどうしたらよいかを参加者同士で考え合いました。



[活動の成果、今後の課題]

「楽しく食事を過ごせば一日数時間、一生のうち何百時間が楽しく過ごせると気づいた」「平日は夫が一人で夕食を食べているので、会話しようと思った」など、他の参加者の発言などから気づき、自分で考えた楽しい食卓づくりをするための工夫を各自持ち帰って実践しています。

専門家から教わるのとは違った、同じ立場同士で工夫を共有しあい、意識を高めるという場の提供を今後も心がけて企画していきます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

たべる*たいせつキッズクラブ

取組主体: 生活協同組合コープあいち

連携団体: 日本生活協同組合連合会

実施時期: 通年（毎月1回）

実施場所: 金山駅周辺会議室など

対象及び参加人数: 25人

【取組の内容】 キーワード：通信サポートプログラム、おたよりカード、返信

コープあいちでは、日本生活協同組合連合会の企画である「たべる*たいせつキッズクラブ」を実施しています。「たべる*たいせつキッズクラブ」は食育の通信サポートプログラムで、コープあいちの5歳から小学校6年生までのお子さんを対象にしています。

春・夏・秋・冬の4回届くワークブックを読んで子どもたちが提出する「おたよりカード」に対して、生協の組合員ボランティアやコープアドバイザーがお返事を書いています。子どもの意欲を引き出すお返事になるよう、また偏った視点にならないように、組合員同士話し合いやチェックを行って書き上げました。



【活動の成果、今後の課題】

子どもたちが関心をもって取り組んだこと自体を大切に、「その子自身の関心や行動を認める」「興味や関心が持続するよう勇気づける」ことを目的としてお返事を書くことで、ワークブックや日常の食に関するさまざまなことに対して子どもが意欲的になるサポートができています。

また、お返事書きボランティアをきっかけに地域の食育活動に取り組むようになった方もいます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

「家族とつくろう！元気が出るヘルシー朝ごはん」メニューを募集

取組主体： 尾張旭市、尾張旭市教育委員会

連携団体： 社会福祉法人 ひまわり福祉会

平成 24 年 12 月 3 日（月）～

実施時期： 平成 25 年 1 月 8 日（火）他

実施場所： 尾張旭市

対象及び参加人数： 市内小中学校の児童・生徒及び一般市民 184 人

[取組の内容] キーワード：朝食の欠食、孤食、家族、朝食メニュー募集

朝食の欠食や一人で食事をする「孤食」を防ぐため、また、朝食の大切さを再確認し、家族と一緒に食事をするきっかけづくりとして、市教育委員会とともに「家族とつくろう！元気が出るヘルシー朝ごはん」と題して朝食のメニューを募集したところ、184 作品の応募があり、その中から市長賞及び教育委員長賞を始め、10 作品を選出しました。入賞者には、市長及び教育長から表彰状と記念品（地元のお米、野菜など）が贈呈されました。

入賞者のメニューは、市広報誌及び市ホームページで公表し、情報を共有しました。



[活動の成果、今後の課題]

市長賞及び教育委員長賞の作品はランチメニューにアレンジし、平成 25 年 5 月及び 6 月に、ひまわり福祉会の運営する旭城レストハウス（尾張旭市城山町長池下 4502）で提供される予定です。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

「家族でつくって食べよう！元気もりもり朝ごはん」メニューをランチとして提供

取組主体： 尾張旭市、尾張旭市教育委員会

連携団体： 社会福祉法人 ひまわり福祉会

実施時期： 平成 24 年 9 月～10 月 他

実施場所： 尾張旭市

対象及び参加人数： 平成 23 年度健康メニュー優秀作品レシピ提供者及びそのご家族、市民

[取組の内容]

キーワード：朝食、家族、募集レシピ、最優秀作品、ランチメニュー提供

朝食の大切さを再確認し、家族と一緒に食事をするきっかけづくりとなるように、市教育委員会とともに平成 23 年度に募集した「家族でつくって食べよう！元気もりもり朝ごはん」メニューにおいて、優秀作品のレシピをもとにしたランチメニュー（650 円）を、ひまわり福祉会の運営する旭城レストハウス（尾張旭市城山町長池下 4502）で 9 月及び 10 月の期間限定で提供しました。

これに先立ち、柚木美咲さん（教育委員長賞）安藤音々さん（教育長賞）とそれぞれのご家族を旭城レストハウスに招待し、試食会を開催しました。「納豆が好きで考えたメニューです。とてもおいしかったです」（柚木さん）「学校の友達にも知らせて、みんなに食べに来てもらいたいです。また来年も応募したいと考えています」（安藤さん）といった感想があり、家族のかたからも「こうした取組は、子どもの食べ物の好き嫌いをなくすきっかけにもなると思います」という意見をいただきました。



[活動の成果、今後の課題]

児童生徒が考えた朝食メニューをランチメニューにアレンジして提供することで、朝食への関心を高めることができました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

野菜スープを作りました

取組主体: 尾張旭市

実施時期: 平成 24 年 8 月 29 日 (水)

実施場所: 尾張旭市

対象及び参加人数: 年長児 27 人

[取組の内容] キーワード : 保育園児、夏野菜、栽培体験、収穫体験、野菜スープ

野菜づくりを通して「食べる楽しみを感じられるように!」と、中部保育園の年長児が畑で夏野菜(きゅうり・かぼちゃ・トマト・オクラ・トウモロコシ)の栽培・収穫をしました。

収穫した野菜でスープ作りをしました。初めて使う包丁に少し緊張しながら切っていく子どもたち。「左手は“猫の手”にするんだよね」と指を丸くして手を切らないように確認したり、それぞれ慎重に野菜を切っていました。

スープができあがると「いいにおいだね」「僕が切ったきゅうりがあるよ」「おいしい!」と嬉しそうに食べました。普段、野菜の苦手だった子も進んで食べたり、おかわりをする子もいて自分達で作ったスープに大満足でした。



[活動の成果、今後の課題]

野菜作り・収穫・調理をする経験を通して、作って食べる喜びや、楽しさを十分感じることができ、食べる意欲へとつながっていきました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

食の専門家（給食委託業者等）による食育事業講演会

取組主体： 尾張旭市学校給食センター

連携団体： 市内小中学校

実施時期： 平成 24 年 9 月 25 日（火） 他

実施場所： 尾張旭市

対象及び参加人数： 市内小中学校保護者他 延 1,323 名参加

[取組の内容] キーワード：小中学校保護者、給食委託業者等、講演会

食の専門家である給食委託業者等による食育事業の講演会を実施しました。

今年度は、9月25日（学校給食センター）、1月17日（市内中学校）に食の専門家である栄養士の長田 絢 講師を招いて、「食べることは、生きること」と題して、食育事業講演会を実施しました。

10月17日（市内中学校）には、給食センターの調理配送業務委託業者の今井弘子 講師を招いて、「食育セミナー『子供たちの食生活を見直そう』」と題して、食育事業講演会を実施しました。

10月29日、11月7日には、市内小学校でフードアナリストの今井敦子 講師を招いて、「いのちをいただきます」と題して、食育事業講演会を実施しました。



[活動の成果、今後の課題]

食の専門家やフードアナリストによる朝ご飯を摂取することの重要性、また、三つ色（赤、黄、緑）のバランスの良い食事を心がけることや児童、生徒の成長期に合わせた献立を考えることで健全な食生活を見直すための食に関する正しい知識を学ぶことができました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

親子料理教室（夏休み親子給食作り体験）

取組主体： 尾張旭市学校給食センター

実施時期： 平成 24 年 8 月 2 日（木）

実施場所： 尾張旭市

対象及び参加人数： 市内の小中学校に通う児童とその保護者 12 組

[取組の内容] キーワード： 小中学生、学校給食、夏休み、親子、調理実習

学校給食を身近に感じていただくために親子料理教室を実施しました。

今年度は、8月2日に学校給食センターにおいて学校給食を実際に作るにより身近に感じてもらうために「夏休み親子給食作り体験」を実施しました。



[活動の成果、今後の課題]

学校給食センターを食育の拠点施設とし、親子で学校給食を作るにより、食の大切さ親子のふれあいを通じて食の大切さや学校給食を理解することができました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

就学前児童の給食センター見学会

取組主体: 尾張旭市学校給食センター

連携団体: 市内保育園

実施時期: 平成 24 年 11 月 13 日 (火) 他

実施場所: 尾張旭市

対象及び参加人数: 市内就学前児童 (年長) 113 名

[取組の内容] キーワード : 保育園児、給食センター、見学

就学前児童を対象に給食センターの見学を実施しました。

今年度は、11月13日、12月10日、2月14日に市内の保育園児(年長)に対し、施設見学会を実施しました。



[活動の成果、今後の課題]

来年度、小学校へ入学する保育園児(年長さん)に対し、給食センターの食育施設を活用し、食の大切さ及び食に関する正しい知識を学んでもらうことができました。

また、今回の見学によって、小学生になってからも正しい食生活の習慣を育むことが期待されます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

給食献立募集

取組主体: 尾張旭市学校給食センター

連携団体: 市内小中学校

実施時期: 平成 24 年 7 月 31 日 (火)

実施場所: 尾張旭市

対象及び参加人数: 市内小中学校児童生徒 136 名参加

[取組の内容] キーワード : 小中学生、学校給食、給食献立募集

市内小中学校児童生徒を対象に給食献立募集を実施しました。

今年度は、7月31日に学校給食献立選考会を開催し、市内小中学校児童生徒を対象に給食献立募集を実施しました。

児童生徒から136点の応募があり、「切り干しだいこんのコールスローサラダ」を始め、10点を給食に採用しました。



[活動の成果、今後の課題]

児童生徒の考えた献立を学校給食に取り入れることでより魅力的な楽しい給食にし、給食への関心を高めることができました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために	1 食を楽しむゆとりの確保
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

「魚食の伝道師」を小学校に派遣

取組主体： 愛知県

連携団体： 県内小学校

実施時期： 平成 24 年 10 月 16 日（火） 他

実施場所： 半田市 他

対象及び参加人数： 小学生 793 名

[取組の内容] キーワード： 魚食、水産業、魚食の伝道師、小学校

県では、子ども達に魚食の大切さや漁業のすばらしさ、役割などを伝える「魚食の伝道師派遣事業」を 24 年度から実施しています。

漁業者の方と県職員を、小学校の授業に「魚食の伝道師」として派遣し、「愛知県でとれる水産物」や「愛知県の漁業」に関する講義や実習を通じて、子ども達の漁業や水産物への理解促進を図りました。

- 主な内容： 漁獲した水産物の展示、水産物に触れる体験、アサリの浄化機能の実験、画像や動画による愛知県の漁業、魚の栄養や海の世界連鎖の講義 など
- 実施箇所： 10 カ所（小学校）
- 参加児童数： 793 名



[活動の成果、今後の課題]

本物の漁師さんのお話子どもたちは興味津々で、「今まで獲れた中で一番大きい魚は何ですか？」「海にはどのくらいの貝がいるのですか？」など、たくさんの質問が飛び交いました。そしてスズキなどの漁獲物には「でけー！」などと大歓声でした。

実施後の感想では、「魚をもっと食べようと思った」「本物の魚を見られて、さわられて良かった」などの感想が多く聞かれ、事業の目的は十分に果たせたと考えています。

魚食の普及のためには子どもたちに魚を好きになってもらうことが一番です。県では今後もこのような取り組みを続けていきたいと考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

子ども達の稚魚放流体験

取組主体: 愛知県

連携団体: 県内小学校等

実施時期: 平成 24 年 4 月 24 日 (火) 他

実施場所: 岡崎市 他

対象及び参加人数: 小学生等 353 名

[取組の内容] キーワード : 川、アユ、サツキマス、小学生、放流体験

愛知県には、木曽川、豊川、矢作川という大きな一級河川が流れ、アユやアマゴなども魚も漁獲されています。県では、川の近くにすむ子ども達に、身近な川の恵みであるアユや降海性アマゴ(サツキマス)を知ってもらおうと、平成 24 年度から放流体験や魚講座を行っています。

- 主な内容 : アユやサツキマスの放流体験
パネル等による愛知県の漁業や水産物の説明 など
- 実施個所 : 7カ所(小学校、幼稚園等)
- 参加児童数 : 353名



[活動の成果、今後の課題]

放流した魚たちがちゃんと泳いでいくか、子どもたちは心配そうに見守っていました。家のすぐそばの川で漁獲される魚のことや、漁協の人が放流して増やしていることもあまり知らなかった子も多く、貴重な体験になったことと思います。

今後も県では、身近な海や川で漁獲される魚たちのことを地道に伝えていきたいと考えています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

平成24年度学校給食調理コンクール

取組主体: 公益財団法人愛知県学校給食会

連携団体: 愛知県教育委員会

実施時期: 平成24年8月3日(金)

実施場所: 愛知県学校給食総合センター(豊明市)

対象及び参加人数: 愛知県内栄養教諭・学校栄養職員・調理員

[取組の内容] キーワード：学校給食、コンクール、栄養教諭・学校栄養職員、調理員

学校給食における衛生的で安全な食事内容の充実と献立の多様化、調理員の技術の研さんと意欲の高揚を図るために実施しており、今年度は8月3日に開催しました。39回目を迎えた本年度のテーマは、『地場産物を活用したおいしい!「日本型学校給食」』と題し、県内各地から269点の献立が集まりました。その中から、書類審査により選考を通過した10チームが本コンクールに出場し、「自由献立(応募献立)」と「課題献立」により調理を競いました。



[活動の成果、今後の課題]

この取組は、愛知県教育委員会と共催で行い、栄養教諭・学校栄養職員と調理員を対象に実施しました。自由献立(応募献立)には、地域の特産物を使い、子どもたちに食べ続けてほしいという思いのこもった献立が集まりました。課題献立には、地場産物を活用し、さらに「ま(豆類)ご(ごま)わ(海草)や(野菜)さ(魚)し(きのこ類)い(芋類)」を積極的に取り入れた献立が集まりました。

また、調理コンクールの献立をまとめた献立集を作成し、食育の推進および啓発に大きな成果をあげました。今後も、この成果を基に食育の更なる推進と学校給食の充実と発展を図ります。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

地域の人々と触れ合いながら収穫

取組主体: 名古屋市立桶狭間幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

実施時期: 平成 24 年 5 月 22 日(火)他 2 回 **実施場所:** 名古屋市立桶狭間幼稚園

対象及び参加人数: 5 歳児親子、PTA 役員など 80 名

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、保護者、PTA、農作業体験、サツマイモ

名古屋市立桶狭間幼稚園では、地域の「ふれあい農園」をお借りしてサツマイモを育てています。5 月に 5 歳児親子と PTA 役員で苗を植え、夏休みには親子で草取りや水やりを行い大切にしてきました。11 月の親子での収穫までの間、PTA 役員が中心になり世話をしてきました。そんな姿を見て、畑を訪れる子どもたちや PTA のみなさんに、地域の方々は、畑のことや肥料のことを親切に教えてくださったり、他の野菜を見せてくださったりしました。また、「ふれあい農園」で種から育てている花の苗を幼稚園に届けてくださり、幼稚園ではきれいな花々が子どもたちを優しく見守ってくれています。

今年はとてもたくさんのサツマイモが収穫でき、年長児が「おいもパーティ」を開いて、年中、年少児を招待しました。他にも幼稚園でふかし芋にして食べたり、全園児が持ち帰ったサツマイモを家庭で料理して親子の触れ合いにつなげたりすることができました。



[活動の成果、今後の課題]

「ふれあい農園」での活動を通して幼稚園と地域が近くなり、子どもたちにとってサツマイモの収穫はいろいろな人々に助けていただいていることを実感できるよい経験となりました。そして、農園での様々な野菜が実っている様子を知る機会にもなり、食べ物への関心や感謝の気持ちにもつながったと思います。また、年長児と年中、年少児との交流や、家庭への話題提供にもつながりました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

みんなで餅つき

取組主体: 名古屋市立春田幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

実施時期: 平成 24 年 12 月 18 日 (火)

実施場所: 名古屋市立春田幼稚園

対象及び参加人数: 園児・保護者・地域の方

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、保護者、地域住民、餅つき、雑煮

名古屋市立春田幼稚園では、毎年 12 月に餅つきをしています。今年は、保護者だけでなく近隣の中学校や地域の方も応援してくださり、一緒につきたての餅でつくった雑煮をいただきました。

この餅つきでは、5 歳児が近くの米屋さんまでもち米を買いに行き、前日に、もち米を一粒もこぼさないように緊張しながら丁寧に研ぎました。

餅つき当日は、せいろにもち米を入れ、園庭に設置したかまどで蒸しあがるのを待ちました。白い湯気がたくさん出て、もち米のいい香りがしてきたとき、一口ずつ食べました。「これがきのうのお米だよね」「ちょっと硬いけどおいしいね」と友達と顔を見合わせたり、はじめて餅つきをする 3 歳児は、「これが餅になるの」と、不思議そうにしたりしていました。はじめは、地域の方がもち米をうすに入れてつくのを「よいしょ、よいしょ」と掛け声をかけて見ました。自分たちの出番になると、きねをもち上げ大人に負けないように力いっぱいつきました。



[活動の成果、今後の課題]

5 歳児は、今迄にも餅つきの経験はありましたが、“地域にもち米の買い物に出かけたこと”“自分たちでお米を研いだこと”は初めての経験で、おもちの元はもち米であったことを実感して学ぶことができました。

また、中学生や地域の方の力強い餅つきを実際に見て、あこがれの気持ちをもつことができ、よい経験になりました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

親子うどん教室開催「ふれあいの中での食育」

取組主体: 知多市立東部幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

連携団体: うどん作り「出前講座」
チーム麺・メン

実施時期: 平成 24 年 12 月 13 日 (木)

実施場所: 知多市立東部幼稚園

対象及び参加人数: 知多市立東部幼稚園 年長児親子 37 組

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、保護者、うどん、調理実習、出前講座

知多市立東部幼稚園では、親子のふれあい活動の中で、親子で調理したものを味わい、食に関する意識を高めていく機会を作りました。うどん作り「出前講座」チーム麺・メンの方々にご協力いただき、年長親子を対象にした、親子うどんづくり教室を開催いたしました。日ごろ、家庭でもよく食べて親しみのあるうどんですが、作ることから経験したことのある親子は、ほとんどいませんでした。「自分で作れるなんて楽しそう」「どんな風に作るのかやってみたい」と、参加前からうどん作りへの期待が、親子の間で高まっていました。チーム麺・メンの方々のご指導のもと、小麦粉、塩、水を使い、うどん打ちの体験をしました。親子で一緒に体全体を使って、手でしっかりこねたり、伸ばしたり、足で踏んだりしているうちに、自然に親子の会話や協力する動きが出ていました。手間隙かけて作ったうどんは、PTA役員の方が、大鍋直ぐに茹でてくださり、茹でたてをみんなでいただくことができました。「すごい。こんなにおいしいなんて」「家でもすぐにやってみる」「自分でもやれるかも」と親子や保護者同士の会話で聞かれました。食材作りから体験し、自分で作ったものの作りたてのおいしさを味わい、楽しくて幸せな親子のひとつときとなりました。



[活動の成果、今後の課題]

親子で一緒に作りながら、「もうちょっとこねたほうがいいかな」「うんそうだね」と言ったり、うどん踏みを親子で交替したりしてやりながら、「よいしょ。よいしょ。」とお互いに手を握って、体を支え、掛け声をかけるなど、おいしいうどんを親子共にイメージし、自然なやり取りや共感的な会話やかかわりが多く見られました。うどんという食材は、親しみやすく、どの親子にも作ったり、食べたりすることが受け入れやすかったです。また、自分で作ったものをいただくことが、こんなにおいしく感じるものであることを親子で経験できました。

年長児親子が取り組んでいるのを見て、保護者が是非、来年度経験してみたいと要望がありました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	🍷 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

「おいもパーティーをしました。ほらせてくれてありがとう」

取組主体: 名古屋市立二城幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

連携団体: 地域住民

実施時期: 平成 24 年 9 月 ~ 11 月

実施場所: 名古屋市立二城幼稚園

対象及び参加人数: 年長児 51 名

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、地域住民、サツマイモ、収穫体験、感謝

名古屋市立二城幼稚園では、地域のMさんの畑で年長児がさつま芋掘りをさせていただいています。9月頃に畑に行き、芋の様子を見たりMさんからお話をお聞きしたりし、芋掘りを楽しみに待ちます。

今年度も、10月末に芋掘りをしました。1学期に、園で育てた玉ねぎやじゃがいもを使ってカレー作りを経験した年長児は、今度は掘ってきたさつま芋を使って「おいもパーティー」を開きたいと、自分たちでしたいこと、できることを考えました。会場の入り口の看板や飾りを作ったり、お店の人のように、芋を焼く、運ぶ、案内するなどの役割を分担したり、お客さんが喜ぶように余興も考えたりして、小さい組を招待しました。小さい組に「おいしかった」「レストランの人みたい」「楽しかった」など言ってもらい、年長児はとても満足気で、自分たちのしたことで周りの人に喜んでもらえたうれしさを味わいました。さっそく、年長児は、『おいもパーティー』のことを、Mさんに知らせたいと「Mさんのおいもでおいもパーティーをしました」「たのしかったです」「おいもをほらせてくれてありがとう」などと思い思いにお礼の気持ちを、畑まで行って伝え喜んでいました。



[活動の成果、今後の課題]

自分たちで栽培したものを調理して食べる体験とはまた違い、この活動では、地域の方と触れ合いながら収穫に携わる体験と、人を招待して人に喜んでもらう体験ができました。そして、周りの人のことを考えながら、今までの経験を活かし考えたことをやってみたら「食べる」ことがさらに楽しくおいしくなることを実感し、喜びにつながりました。

今後も様々な人と触れ合いながら栽培や「食べる」ことを楽しみ、人とのつながりや感謝の気持ちを感じていって欲しいと思います。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

みんなでおやつ作り 『お芋で茶きん絞り』

取組主体: 名古屋市立報徳幼稚園
(愛知県国公立幼稚園長会)

実施時期: 平成 24 年 10 月

実施場所: 名古屋市立報徳幼稚園

対象及び参加人数: 4 歳児 22 名

[取組の内容] キーワード : 幼稚園児、農作業体験、サツマイモ、茶きん絞り

名古屋市立報徳幼稚園では、毎年いろいろな野菜の栽培をしています。自分たちで土づくりから行い、苗を植えて世話をし、収穫したものを調理して食べる体験ができるように計画しています。

4 歳児は、園内の畑でサツマイモを育てました。長い芋のツルを引っ張って芋掘りを楽しんだ後、収穫した芋で茶きん絞りに挑戦。蒸したサツマイモの色や香り、温かさを手のひらで感じながら、一人一人がラップに包まれた材料の形を整えて、茶きん絞りのおやつを作り、おいしく食べました。



[活動の成果、今後の課題]

成長を楽しみにして世話をしてきたものを収穫する喜びや、食べる喜びを十分に味わうことができました。

子どもたちが、野菜にもっと関心をもてるような工夫をして、様々な野菜に出会わせたり、調理に参加させたりしていきたいと考えます。

また、皆で一緒に食べる経験を通して、会食の楽しさを味わい、食べることへの意欲を高めていきたいと考えます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	❤️ 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

もしもにそなえて、お父さんと非常食を作ってみよう！
 （名古屋市南区役所男女平等参画社会推進事業）

取組主体： 公益社団法人愛知県栄養士会・食育推進委員会

連携団体： 名古屋市南区まちづくり推進室

実施時期： 平成 24 年 8 月 25 日（土）

実施場所： 名古屋市南区生涯学習センター

対象及び参加人数： 名古屋市南区内在住の小学生とその父親を含むグループ 9 組 24 名

【取組の内容】 キーワード： 備蓄食材、災害レシピ、親子、調理実習

東日本大震災の経験をもとに、愛知県栄養士会では、備蓄食材の活用の仕方を記した、災害レシピ集「いざという時に役立つ災害時の食の備え」を発行しました。

レシピ集では、ライフラインがすべて途絶えたとき、冷蔵庫・冷凍庫にある食品や缶詰・乾物などの備蓄品を使った簡単でおいしい栄養バランスを考えた災害食メニューを提案しています。

この日は、この災害レシピ集を使って、普段料理をする機会が少ない父親とその子供たちにもできる、簡単な非常食の調理実習を行いました。作ったメニューは、さんまの蒲焼ねぎ丼、簡単やきそば飯、乾パンのトマト煮、超カン（缶）タン和え物、ポテトサラダの 5 品。

慣れない調理でしたが、皆で楽しく、美味しい非常食を作り、災害への備えを再認識できる良い機会となりました。



【活動の成果、今後の課題】

普段あまり料理をしない父親と子どもたちが、調理実習を通して、親子のコミュニケーションをとる良い機会となりました。

また、非常時には自助の精神が大切で、自分や家族を守るためにも、日頃から災害時の様々な状況を想定しシミュレーションを行い、防災意識を高める必要性を感じていただけました。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

知っ得！なっ得！Summer festa in こざかい児童館

取組主体： 生活協同組合 コープあいち

連携団体： 豊川市こざかい児童館 共催

実施時期： 平成 24 年 8 月 29 日（水）

実施場所： 豊川市こざかい児童館

対象及び参加人数： 近隣の親子、子ども 322 人

【取組の内容】 キーワード： コープアドバイザー、児童館、学習、手作り体験、食育啓発

コープあいちの組合員である「コープアドバイザー」が主催する『知っ得！なっ得！Summer Festa in こざかい児童館』を 8 月 29 日（水）に開催しました。

『知っ得！なっ得！Summer festa』は毎年、豊川市周辺の施設で行われており、準備、運営すべてをコープあいちのコープアドバイザーが行います。

平成 24 年は、地域の児童館と共同開催となり、当日は 300 人を超える人が集まりました。生協からは、「正しい箸の遣い方」「着色料」「飲料等に含まれる糖分」「食まるファイブ」「環境輪投げ」などを用いて、食や環境に関わる学習、児童館からは手作り体験などを実施し、地域の子どもたちが楽しく体験をしました。



【活動の成果、今後の課題】

飲料にはどのくらいの糖分（砂糖）が含まれているかや、食まるファイブを用いたバランスの良い食生活などについて、学ぶ機会を提供できました。普段家庭ではなかなか説明できないことなどが学習でき、児童館からは手作り体験などが用意され、有意義な活動になりました。

こうした活動を多くの地域で行い、食育の啓発活動に取り組んでいきたいと考えます。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	 食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

消費者と生産者の交流が貴重な食育の場となっています

取組主体: 生活協同組合コープあいち

連携団体: 各 JA

実施時期: 平成 24 年 5 月、7 月、9 月、10 月

実施場所: 各 JA 営農センター及び圃場

対象及び参加人数: 生協組合員・消費者 2,500 名

【取組の内容】 キーワード：親子、お米作り体験、交流、農協、生き物観察会

「あいちを食べよう 日本の食をたいせつに！」をテーマに、食育の取組を進めました。お米づくり体験交流は、愛知県の JA あいち海部、JA あいち豊田、JA あいち中央、JA あいち三河の圃場で 2,500 名を超える参加で田植え、生きもの観察会・かかしづくり、稲刈りまでを行いました。それぞれに生産者の皆さんから、圃場で田植えの仕方、稲刈りの仕方など丁寧に指導頂き実際に参加者が体験しました。終了後は当該産地で穫れたお米のご飯を頂きながら、お米についての様々なことを学習する場を持ち生産者、農協の皆さんと交流しました。

なお、JA あいち豊田「親子で学ぼう生きもの観察会」は「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進交付金事業」として取り組みました。



JA あいち中央田植え



JA あいち豊田生きもの観察



JA あいち海部稲刈り

【活動の成果、今後の課題】

お米づくり体験交流の取組は、JA あいち海部、JA あいち豊田、JA あいち中央 JA あいち三河の各農協との共催で実施しました。JA あいち豊田の生きもの観察会では、「子どもが大変生き物が好きなので、大よろこびでした。親も一緒に楽しめて貴重な時間を過ごせました。」「雨がたくさんふっていて寒かったけど、色々な生き物がとれて楽しかったです。」「無農薬でたくましく育つ稲がすごいなと思います。食べるものを育てる大変さ、大切さは普段分かっているつもりでも、実際に田んぼや畑に来ると、より実感できます。」との感想が寄せられました。

お米づくり体験交流は、親子で楽しみながら食の大切さ、生産者の苦勞を知る貴重な食育体験となっています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

親子食育連続企画「くいしんぼひろば」

取組主体: 生活協同組合コープあいち

実施時期: 平成 24 年 6 月～平成 25 年 3 月

実施場所: コープ小幡
コープ大高インター店

対象及び参加人数: コープあいち組合員 親子 15 組

【取組の内容】 キーワード：親子、学習会、企画参加

コープあいちで行っている「くいしんぼひろば」は、親子で楽しく「食べること」を学ぶ場です。年長から小学校 6 年生の子どもとその親を対象に、お買い物や料理、食べものや食べ方のことを知ってもらう学習会などを開催し、「食べること」が大好きになるよう応援しています。

春に一度登録すると、全 7 回の企画に参加することができます。企画内容は「お店探検と手作りおにぎり」「夏野菜カレーとラッシー作り～買い物からしてみよう」「親子実験教室～ジュースを作ってみよう」「だしの学習会と伊達巻作り」「パエリア作り～三河湾でとれる魚の話」「バスで出かけよう！産地見学」で、買い物から始める親子クッキングやお店探検など、開催会場が生協の店舗である点も活かし企画になっています。



【活動の成果、今後の課題】

どの企画も「楽しかった」と毎回好評の声を頂いています。クッキングや産地見学などと同じように食事バランスの学習企画も入れることで、抵抗なく学習会にも参加していただき、日頃の食事について見直して頂く機会を提供することができました。続けて参加することで参加者同士が仲良くなることもあり、親子だけでなく他の家族も含めて「食べること」を楽しんで頂ける企画となりました。休まず参加するには回数が多いようなので、次年度は回数を少なくし、連続して全企画に参加できるようにします。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		

愛知県産加工用トマトの収穫体験、ケチャップづくり

取組主体: 生活協同組合コープあいち

連携団体: 各JA、コーミ株式会社

実施時期: 平成24年7月～8月

実施場所: 豊橋、豊田、知多の圃場及び調理施設

対象及び参加人数: 生協組合員・消費者 359名

[取組の内容] キーワード：加工用トマト、収穫体験、ケチャップづくり

愛知県の加工用トマトは古くから生産されてきましたが、輸入トマトなどに押され、減産傾向が続いています。そうした中、地元の加工食品メーカーと一緒に、加工用トマトの収穫体験、そしてそのトマトを使ってのケチャップづくりを消費者が参加して取り組んできました。

平成24年度は、12回開催し359名の参加がありました。



[活動の成果、今後の課題]

加工用トマトが露地栽培で栽培されることや、真夏の暑い時期に完熟で収穫され、すぐにケチャップに加工されていることを知りました。生産者と交流することでその苦勞を知り、愛知県産加工用トマトのおいしさ、価値も知ることができました。

生産者が意欲を持って継続して愛知県産加工用トマトを生産して頂けるよう、愛知県産トマトの価値をもっと広く知らせていきたいと思っています。

【ライフステージ】		【取組の場面】		【プランの取組体系】	
乳幼児期	少年・青年期	保幼	学校	食を通じて豊かな心を育むために	2 体験や交流を通じた食の理解促進
壮年・中年期	高齢期	職場	地域		